

## 第13回 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 議事要旨

日時	令和5年3月14日（火）午後3時15分～4時20分
場所	武蔵野市役所 812 会議室
参加者	委員長、委員13名、事務局3名 計17名

### ■配布資料

- 第13回 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 次第
- 井之頭小学校研究発表資料
- 【小学校・下学年】学習者用コンピュータ使用のやくそく（資料1）
- 令和4年度学習者用コンピュータ活用事業のまとめ

### ■内 容

#### 1 開会

#### 2 事務局から

##### ①井之頭小学校の研究発表について

#### （事務局）

- ・ 令和5年2月24日井之頭小学校にて研究発表が行われた。当日は教員、保護者、地域の方々を含めて126名が参加された。研究授業では各学年の子供たちが実態に応じて学習者用コンピュータを効果的に活用した事例が全学年で展開されていた。また、国立教育政策研究所の福本先生の「これからの時代を担う子供たちと情報活用能力」と題した講演も開かれた。

#### （委員長）

- ・ 委員Bより研究発表の内容について紹介いただきたい。

#### （委員B）

- ・ 資料をお持ちしたので、ご覧いただきたい。リーフレットには「情報活用能力育成計画」「研究概要」「実践事例」を掲載している。井之頭小学校では情報活用能力を身に付けるのを目的とするのではなく、問題解決の中で適切に活用できるようにすることを目指して2年間の研究を行った。
- ・ 「情報活用能力育成計画」について、学習者用コンピュータの導入により身に付けられる情報活用能力が大きく変わった。そのため、まずはそこを整理することを重点的に行った。
- ・ 「研究概要」について、情報活用能力育成計画は学習者用コンピュータを使わない部分もあるが、その中でも学習者用コンピュータを使うことでこの情報活用能力が育成できるか意識しながら授業を行った。また、問題解決のどの部

分で何を活用するかで、この情報活用能力を発揮し、さらにその教科の資質・能力に迫ることができるか意識し行ってきた。

- ・ 「実践事例」について、1年生から6年生まである。様々な教科で活用した。研究発表当日は全部で7本の授業を行った。各学年1つ、専科（音楽）で1つ実施した。
- ・ 日常的に学習者用コンピュータを活用していかないと身に付いていかないと考え、そのため普段の授業で使えるところはなるべく活用してきた。2年間の実践を通して、児童たちは積み重ねてきたことが自然と普段の授業の中で活用できるようになってきた。デジタル・シティズンシップの面では、まだまだトラブルがある。活用できるようになったからこそ、発生した問題もあるため、今後はデジタル・シティズンシップにも力を入れていかなければならない。今回の資料は参考にさせていただきたい。

**(委員長)**

- ・ 情報活用能力育成計画は全学校で作成いただきたい。それぞれの学校で今回の資料を参考いただきながら、毎日の授業の中で日常的に使えるツールとして活用していただきたい。

**(委員 A)**

- ・ 情報活用能力育成計画は各校ごとに実態が異なるため、各校ごとに考えていただきたい。作って終わりではなく、生徒たちの状況によって不断の見直しを行っていくのが大事である。
- ・ また、研究発表当日に行った7本の授業について、当日参加した方やこの資料を見た方には「これなら私も授業で実践できるのでは、これならやれそうだ。」といったところを感じていただきたい。
- ・ 「これからの時代を担う子供たちと情報活用能力」と題した講演についても、何かの参考にさせていただきたい。

**(委員長)**

- ・ これについて、質問があるか。

**(全員)**

- ・ 特になし。

**3 協議**

- ①「タブレット型パソコンの使用の約束」の修正について

**(事務局)**

- ・ 資料1について、加筆修正箇所は太字で下線を引いてある。以降加筆修正箇所

について説明していく。

- ・ タブレット型パソコンと記載のあった箇所は学習者用コンピュータに名称を統一した。学校現場ではタブレット型パソコンではなく学習者用コンピュータの名称が定着しているため、今回修正を行った。
- ・ パスワードは保護者と共有するのであれば変更可とした。これまではパスワードを変更しないよう案内していたが、現行は保護者と共有するのであれば変更可能としている。
- ・ 故障の原因となることについて、2つ追加している。
- ・ 机の上の端には置かない。落下での破損が多いため、追加をした。
- ・ 配られたアダプタ以外で充電しないようにしてほしい。メーカーから純正品での充電を推奨されているため追加を行った。
- ・ 以上の内容について、委員の皆様には協議いただきたい。

(委員長)

- ・ タブレット型パソコンではなく学習者用コンピュータに名称統一するのは良いと思われるが、この修正について質問・意見あるか。
- ・ 委員Dからは何かあるか。

(委員D)

- ・ 特にないと考える。

(委員I)

- ・ この検討委員会の発足当初に議論を行い、名称をタブレット型パソコンとした。しかし、学校現場ではタブレット型パソコンではなく、学習者用コンピュータが浸透しているため今回修正を行った。
- ・ パスワードについては保護者と共有するのであれば変更を可能としている運用となっているため、今回変更せず配布しては誤解のもととなる。そのため変更とさせていただきたい。
- ・ 故障について、物理的な破損が今年度多かった。充電は純正でないとバッテリーに影響が今後出てくると懸念される。以上の内容から教育委員会として今回修正・加筆はさせていただきたい。

(委員長)

- ・ 委員Eからは何かあるか。

(委員E)

- ・ この案内文については児童・保護者へ配布するため、見易さも注意していただきたい。どのような条件で漢字記載、どのような場合にフリガナを振るか、そ

れが不明瞭な箇所が散見される。

(事務局)

- ・ 低学年用と中・高学年用と二種類で作っていた。今回は低学年用である。

(委員 I)

- ・ 低学年であるならば、一度振ったルビは2回目以降振らないようにするなど、読みやすさに工夫が必要である。

(委員長)

- ・ 委員 F からは何かあるか。中学校の視点から見るといかがか。

(委員 F)

- ・ 修正・加筆については問題ない。細かい話ではあるが OS のアップデートを考慮すると、使用終了毎にシャットダウンを推奨するといったと基本的な内容も含めて記載してはどうか。学校では使用終了時に端末を閉じるだけの生徒が多いと見受けられる。そのため、OS のアップデートが実行されない。

(委員 B)

- ・ 机の端に置くことについて、授業中に整理する時や文字を書く時にどうしても端に置く場面が出てくる。机の端に置くといった表現に工夫が必要と思われる。

(委員 I)

- ・ 落としやすいところに置かないようにするといった文言修正をすると表現が曖昧になると思われる。

(委員 A)

- ・ 落としやすいところに置かないといった表現は汎用性が高い。移動時においても、落下をしないようちゃんと抱えて持ち運ぶといったことも考えられる表現である。落下を含めた取り扱いに注意してほしいといった意図であれば汎用性をもう少し上げて良いと思われる。

(委員 D)

- ・ 活字が多いといった印象がある。二重丸、●、箇条書き、余白があるため、その辺を整理できないか。文章でなく、フォームにして記載すると良いと思われる。枠にして、項目ごとに見易くする。配布して見てもらうものなので、見易さは大事である。

(委員長)

- ・ 項目を作成するなど整理の余地はある。事務局には検討いただきたい。

②「令和4年度学習者用コンピュータ活用事業のまとめ」について

(事務局)

- ・ 本委員会で議論したものを中心にまとめたものである。また、学習者用コンピュータ通信からの内容、デジタル・シティズンシップの実践事例、授業での活用事例もまとめている。令和4年度学習者用コンピュータ活用事業のまとめのP40の次年度に向けた課題は本委員会やICT活用推進リーダー連絡会などで明らかになったものについて、次年度の課題も載せている。委員の皆様には内容について議論いただきたい。とりわけP40の次年度に向けた課題の内容について議論いただきたい。

(委員長)

- ・ P40の次年度に向けた課題の内容以外に質問あるか。

(全員)

- ・ 特になし。

(委員長)

- ・ それではP40の次年度に向けた課題の内容について議論いただきたい。

(委員J)

- ・ 保護者と学校との共通理解について課題があると思われる。家庭によって学習者用コンピュータへの意識が異なると感じる。YouTubeを家で見て困ると学校へ連絡があることもあり、学習に使う端末であるという共通理解が、学校と保護者で一緒に深めていけると良いと考える。

(委員長)

- ・ 次年度に向けた課題の学習者用コンピュータの使用に関する学校と家庭の役割に当てはまるということで良いか。

(委員J)

- ・ 良い。

(委員長)

- ・ 他にあるか。

(委員 L)

- ・ ICT を活用していくことは良いと考えるが、どのような場面で使うと良いといったことを考えるだけでなく、それとは逆に使うとよろしくない場面についても考えなければならない。時間や視力の問題もあるため、保護者との連携が必要である。ICT の活用は効果的な場面の周知だけでなく、良くない効果についても周知すると使用にあたりメリハリが出てくると思われる。

(委員長)

- ・ 委員 L の発言は適切かつ効果的な授業実践のさらなる蓄積にあてはまる。

(委員 M)

- ・ 健康面のデメリットは視力を始めとした、姿勢、眼精疲労と様々であるが、心の問題として、依存してしまうのは特に問題と考える。満たされないときに ICT 機器を使い、生活リズムに影響してしまう。そして、授業中に使いたくなってしまうのが問題である。とりわけ、小学校高学年は思春期を迎えているような問題がでてくる。デメリットを最小限にするために考えていく必要がある。

(委員長)

- ・ ネット依存も絡む複雑な問題であると思われる。

(委員 K)

- ・ 授業の冒頭でバッテリーが切れてしまう生徒がいる。端末自体を自宅に忘れてしまう生徒もいる。その場合は授業中に実践することができず、自宅で実践することになる。それも課題と考えている。

(委員長)

- ・ 「学習者用コンピュータの使用の約束」について各校の現状にあてはまると思われる。なかなか難しい課題である。

(委員 H)

- ・ メディアコントロールの期間中は生徒の申告にはなってしまうが、自宅でどれだけ使用しているか時間が分かる。保護者の皆様からは夜中まで PC を使って朝起きれないといった声も受ける。学校から配布した端末の使用状況が分かるようになると良いと考える。

(委員 G)

- ・ まなびポケットなどは生徒からの評判が良い印象である。

- ・ 生徒が学習する上で、PCをどこまでうまく使えるかは生徒それぞれである。それについても今後の課題と思われる。コンピュータのスキルがある子は授業でコンピュータを活用し、自身の考えなどを表現することができるが、スキルがない生徒は、コンピュータを使用しての表現が難しくなる。手で書いた方が楽という子もいる。そのギャップを埋める必要がある。しかし、学習者用コンピュータを授業で使用することで調べ学習ができるようになった子もいる。そのため、難しい問題ではあるが、これについてはうまく折り合いをつける必要があると考える。

(委員 A)

- ・ スキルの有無はどうしても発生してしまう問題である。しかし、コンピュータを使わずに一生過ごせるかというところというわけにはいかなかったりする。苦手でも向き合っていく場面は作っていかないとスキルは上がっていかない。しかし、コンピュータを活用しなくても授業が可能な場面は使用するしないのどちらか好きな方を選択ができて良いと考える。
- ・ 家庭と学校との連携の問題や健康面のデメリットについては非常に難しい問題である。

(委員長)

- ・ ある程度の年齢になると、スマホなどの機器を自由に使える。学校で望ましい使い方を家庭とともに考えていくと良い。次年度は活用指針の参考にさせていただきたい。

(委員 E)

- ・ 教員によって授業での学習者用コンピュータの使用量に差が出てしまう。教員の学習者用コンピュータを使用しての指導技術を上げることも必要である。

(委員長)

- ・ 職員研修などが必要ということか。

(委員 E)

- ・ 職員研修は学校側でも実施しているが、なかなか成果が出ない現状である。

(委員長)

- ・ 井之頭小学校研究発表会では学習者用コンピュータを手軽に使える例も見られたため、参考いただきたい。

(委員 A)

- ・ 井之頭小学校研究発表について、様々な授業がみられた。学習者用コンピュータを活用しないと実践できないものから一部を学習者用コンピュータに置き換えたものまでである。それは様々な教員の参考になると考える。教員それぞれの授業に対するポリシーはあるが、そこに何か引っかかってくれば良いと思われる。

(委員 I)

- ・ 様々な側面の課題をもらったので、さらに膨らませていきたい。適切な使い方、効果的な使い方はこれまでの実践で様々見られた。セカンドスクールなどの体験活動の場とのバランスを考えながら更なる活用を検討していきたい。
- ・ 健康面のデメリットについて、視力や姿勢についても経年で見ていかなければならない課題であり、ネット依存についてはさらに難しい問題であると認識している。
- ・ 自分の思考法としてコンピュータを使わない方が良いといった児童・生徒がコンピュータを使用しなくてもいい、そのような場面で自由に選択できるようにしていくなど、児童・生徒にとっての視点ももう少し詰めていく余地があると考えている。
- ・ 家庭と学校との連携について、保護者の意識はフォーラム等でのアンケートを通して把握することができるが、まだ分かっていないこともある。しっかりとアンケートを取る機会をつくるなど考えていきたい。そこではマイナスの意見をいただくこともあると思われるが、それについては、そもそもどのようなコンセプトで学習者用コンピュータを導入したか、学習者用コンピュータを使うことで社会に出たときにどれほど生きてくるかなど、保護者へ理解を得られると良いと考えている。

(委員長)

- ・ 今回委員会の内容を踏まえて、事務局にはまとめて修正いただきたい。

4 その他

(事務局)

- ・ 最後に情報提供や質問をいただきたい。

(委員長)

- ・ 質問等あるか。

(委員 A)

- ・ 導入してしばらく経っているため、何かこの場で共有できたらと考えている。と



りわけこれからの時期について、新1年生への端末配布や新任教諭向け研修・育成、各校で感じている課題について共有すると良いと思われる。

(委員 B)

- ・ 小学校1年生が初めて端末を使用する時、6年生が1年生の教室に行き、傍について教えている。Google Classroom とまなびポケットについてはログイン方法について教えている。おかげでまなびポケットを1年生は〇×程度であれば使用できるようになった。

(委員 J)

- ・ 1年生は電源コードなどを充電保管庫へきれいに戻す作業が大変であったと聞いている。

(委員 I)

- ・ 1年生は学習者用コンピュータよりもまずは鉛筆を使っての授業が大事あると思われるが、〇×をしたり写真を撮ったりと活用できるところも示していきたい。

(委員 M)

- ・ 低学年は概ね約束を守り端末を使用しているが、高学年は上の学年から情報をもらって色々試しており、指導が難しい。

(委員長)

- ・ 武教研で学習者用コンピュータの使い方をまとめているので参考にさせていただきたい。
- ・ 教員の研修・育成についてはどうか。

(委員 K)

- ・ ICT サポーターの巡回の際に様々な情報をもらうことがある。マニュアルよりも人からの情報は忙しくても吸収できるのでとても助かっている。

(委員長)

- ・ 他に何かあるか。

(全員)

- ・ 特になし。

(事務局)

- ・ 教員の研修について、教員向けに作成しているサイトを Google サイトにアップ

ロードしている。学習者用コンピュータ活用ニュースも配布しているため、ご参考いただきたい。

- ・ 第 13 回が今年度最後の開催となる。1 年間ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・ 次回は令和 5 年 5 月 18 日を予定している。